

2018（平成30）年度 第2回 北栄町歴史民俗資料館運営委員会 議事録

日時 2018（平成30）年11月29日（木）

午前9時35分～10時50分

場所 北栄町中央公民館1階 中研修室

参加者 北栄町文化財保護委員 : 南場兄一・日置糸左エ門・中前雄一郎・遠藤晃子
老人クラブ連合会代表 : 西田鉄也
自治会長会代表 : 松原一人
女性団体連絡協議会代表 : 濱本武代
事務局 : 別本勝美教育長・杉本裕史生涯学習課長・前田美友紀文化スポーツ推進室室長
手嶋仁美文化スポーツ推進室主幹・磯江哲昭北栄みらい伝承館学芸員
書記朝倉
欠席 : 前田明範（北栄町文化財保護委員）

1. 開会

課長 : お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。

今回は委員長の前田明範さんが欠席のため副委員長の南場兄一さんに司会進行をお願いいたします。

2. あいさつ

副委員長 : よろしく申し上げます。

3. 報告事項

(1) 2018（平成30）年度実施事業について…

副委員長 : 事務局申し上げます。

手嶋 : P.3 ①②を主に報告します。

P.4 の図書館まつり期日訂正 11/4-5 → 11/3-4

磯江 : P.3 ①入館者数、展示点数等について

- ・門脇博油彩画展 26点
- ・砂丘開拓の歴史 30点（土地改良区）
- ・明治・大正・昭和生活道具（綿・稲作） 64点 地味だが、お別れ展示と並行して行ったため、入館者数はまあまあだった。
- ・木村香翠書展 29点
- ・移動美術館 21点 高価な作品多数
- ・郷土玩具と北條土人形 22点
- ・北栄町の歴史 写真でたどる北栄町の歴史 } これから
- ・北栄町の人物伝 豊田太蔵・収父子 } 実施

手嶋 : P.3 ② 鳥取県ミュージアムネットワーク（TMN）アドバイザー事業と連携して行いました。再整理として次につなげるをテーマに、他の教育関係機関で活用できそうなものや展示に耐えることができないものの資料展示と譲渡を行った。テ

レビ、新聞など報道の効果が大きく、除籍予定資料の84.3%も引取り申し出があった。

譲渡後、どのような使用をしているかという報告アンケートを義務付けたが、本来の使い方ではなくとも、オブジェなど新たな活用方法を見出した。

P.4 美術展をメインとして11のイベントを行い、計9,007人もの人に来ていただいた。

副委員長：何かありますか。(なし)
よろしいでしょうか。

(2) 収蔵品保存整理について

手嶋：P3 ③

民俗資料 展示・譲渡 → 整理・実施済

資料移動 → 現在実施中。台帳との照合中

埋蔵文化財 今まではただ保存していただけで、活用できない状態であったが、すぐに活用できるように、耐久性の良いコンテナへの入れ替え。遺跡ごとの土器の仕分け中

文書 まだ進んでいない。総務課と要相談

保管場所 亀谷収蔵庫の資料を全て移動し、みらい伝承館の近隣3ヶ所に集約

課長：追加報告

民俗資料の整理に関して、台帳と突き合わせてはいますが、不明なものも多数あり、合併以前のものも多くある。そのため不明のまま除籍になってしまうものもあるということをご理解ください。

全国的にも、新たな収蔵場所をつくることのできない現実の中、収蔵をどう考えていくのかが問題である。今回のお別れ展示・譲渡に対して、東京大学大学院の学生からフォーラムに参加していただけないかという依頼がありました。東京で発表してくるという報告をさせていただきます。

副委員長：何かありますか。(なし)
よろしいでしょうか。

(3) 加藤廉兵衛北條土人形、工房について

磯江：(資料なし・口頭説明)

亡くなられたずいぶん経つが、工房が手つかずで保管されていた。このたび整理して新たなものが出てきた。かわいいだけでなく、土面、羽子板なども出てきた。まだ十分に整理できていないが、時間をかけてやっていく。今後は「竹あかり」をされている森下さんが工房を立ち上げ、そこで活動を始められる。今回の企画展で色付をしていない人形に色付をするというワークショップを行っ

たが、準備していた人形はすぐになくなってしまった。今後は「れんべい人形」をそのまま残すだけでなく、後継者を探し、新たな北條土人形をつくっていきたい。そのため北條土人形保存会を立ち上げたいと個人的には考えている。

課長：追加報告として、毎年ホテル雅叙園さんが雛人形の展示をされています。東京から今回の北條土人形の展示を見に来られて、展示作品のほとんどの興味を持たれていました。来年度の1月に展示予定だということです。「れんべい人形」が全国により広がるチャンスとなります。

副委員長：何かありますか。

濱本：森下さんはどこの方ですか。

磯江：湯梨浜の方です。工房でワークショップなどを開いておられますが、その工房が狭くなったので、加藤さんの工房を使いたいという申し出がありました。

遠藤：いつ頃から、工房を使用される予定ですか。

磯江：すでに動いています。

南場：竹あかりとは、どのようなものですか？

磯江・遠藤：最近の言い方だと、ランプシェード

磯江：家賃を払いながら活動をされています。

(4) その他

南場：何かありますか。

手嶋：事務局はありません。

4. 協議事項

(1) 2019（平成31）年度事業計画について

副委員長：では事務局お願いします。

手嶋：・開館30周年 11月3日（日・祝）

：記念事業ができれば、何かご意見を頂けたら。ふるさとまつりとの連携や企画展ぶどう110年産業振興課との連携なども考えています。

副委員長：ふるさとまつりとは。

手嶋：あつまらいや北条が11月4日に開催されたまつりです。

副委員長：第2回と連動させるということですね。

※会議後、館の完工が1989（平成元）年12月、一般への開館日が1990（平成2）年11月3日のため、開館30周年は2020（平成32）年であることが分かった。具体的な記念事業については今後改めて2020（平成32）年度事業計画として協議することとし、会議に出席された委員には電話にて誤りを説明し了承を得た。

【誤】開館30周年 2019（平成31）年11月3日（日・祝）

【正】開館30周年 2020（平成32）年11月3日（火・祝）

磯江：・展示年間計画及び開催要項 P.8～9

：これまで年間8本の企画展をしていたが、来年度は7本に。第1案と第2案を考えている。郷土の作家たちは相手のあることなので、打診しても難しい状況。今は第2案でと考えている。移動博物館—自然を希望したが定点観測をするので、来年度は市町村からの移動博物館希望はとらないということだった。そのため、自然分野で植物の研究をされている方で土下の磯江さんに打診し内諾を得ている。夏休み期間ということもあり、良い企画だと思う。

- 郷土作家では、進木先生・和紙あかりをされていて、様々な取り組みをされている。内諾を得ている。
- 9月に田熊誠さんの遺作展を考えている。11月に亡くなられたということで遺作展として取り組みたい。配偶者の方から親族で相談したいということでしたので相談していただいた結果、辞退された。12月中にはもう一度打診をし、結果が分かり次第お知らせしたい。
- 12月の北栄町の歴史では、物としては遺物整理状況によるが出土物をやりたい。人としては作家、絵画展示をやりたいと考えているが、整理状況でどちらにするか変わってくる。
- ぶどう栽培100年は北栄町が大々的にしたが、よく調べてみると、ワイン酒造は明治43年から由良宿で行われており、当時の樽・タンク・ラベルなどが出てきた。栽培とワインの歴史は面白いと思う。
- 人物伝は、岩本廉蔵をしっかり研究して紹介したい。北栄町の地盤を築いてきた。

詳しくはP.10～P.16の開催要項を参照ください。

濱本：岩本（江北）と柘田（新田場）はどのくらい時代的にかぶるのか。

日置：岩本は幅広い経営と大庄屋の仕事をこなしていた。

遠藤：六尾反射炉の水確保を岩本が支援していた。

課長：柘田（1810年代）、岩本（1830年代）で重なるところがある。

副委員長：ぜひ立派な企画展を。

磯江：P.17 「郷土の作家たち」では展示できる作品がない・自信がないなど言われる方がおられるため、打診してもなかなか選定しにくい状況がある。そのため北栄町の美術展に関わっておられる方々も候補として挙げている。

副委員長：何かありますか。

磯江：みなさんの方で推薦される方があればお願いします。

遠藤：土下でデザインをされている、野田ゆりさんがおられます。

副委員長：情報提供をお願いします。

副委員長：その他どうでしょうか。

日置：自然なのか絵画なのか分からないが、戦後引き上げてこられた方が、赤松の絵を描かれました。以前、里山には赤松が多かったが、今はなく、竹林になり山の姿が変わっている。

磯江：過去から現在までの植物など積み上げていかないといけない。

〔ぶどうは砂丘地に適し、現在も作り続けている。
綿（蚕）も砂丘地に適していたが、社会的背景もあり、されなくなっていった。
→ 研究をしていくことで、資料が残っていく。〕

防風林として黒松が植林されていった。

副委員長：田熊さんが遺作展を辞退されたということだが、大きな賞もとっておられる。
粘り強く打診をお願いします。

（２）使用料について

手嶋：P.20 今貸館はしていないが、貸出できるように条例を整備しておきたい考え。
来年度、税が10%になるということもあるので条例の改正をしたいと考えている。

副委員長：何かありますか。

課長：県や市が協賛する場合、入館料を定めることが多い。町主催であれば無料だが。

遠藤：倉吉などがしているから定めるのではなく、なるべく無料でできないか。

松原：文化的なこと考えれば無料がよいが、経営的に考えれば仕方ないのか。

課長：貸館があまり想定されている施設ではないが、企画展と企画展との期間に万が一
一個人である場合などを考えて備えという意味で。

遠藤：障がいのある方などにも安価で入館・使用できるようにお願いします。

濱本：廉兵衛工房整理の予算は大丈夫か。

磯江：町ではなく有志で整理し、空き家バンク登録や補助金を活用している。

課長：町は県や町の補助金を調べ、活用をサポートしている。

（３）その他

手嶋：事務局はなし

５．その他 なし

６．閉会

教育長：本日はありがとうございました。

充実した施設になるようにしっかり審議していただいたと思っています。

お別れ展示は29年度から委員のみなさんに審議を重ねていただき、やっと実現できました。ありがとうございました。